

近代神戸の足跡

— 神戸大学附属図書館所蔵資料から

平成17年11月7日(月)～13日(日)
於: 神戸大学社会科学系フロンティア館

展示品目録

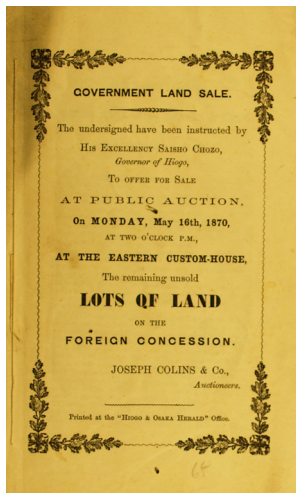
1. 開港と居留地

1868年1月1日(旧暦では慶応3年12月7日)、兵庫運上所(現神戸税関)で開港式典が挙行されました。相前後して居留地の建設が進み、多くの外国人が居を構え、貿易都市・神戸が幕を開けることとなります。本コーナーでは、居留地の形成や生活を伝える各種文書や錦絵・写真を展示しています。文書類は社会科学系図書館で所蔵する開港文書千余点の一部です。

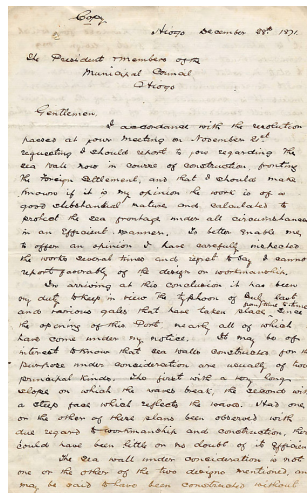
近世に都市として栄えていたのは北前船の寄港地であった兵庫津(現・兵庫区)で、現在の中央区海沿い(走水(はしうど)、二ツ茶屋、神戸の3村)での都市機能形成はほとんどゼロからのスタートでした。長崎・横浜より後発であったこともあいまって、居留地造成が非常に計画的に行われたこと、一方で早くから日本人との「雑居」も進んだこと、居留地の自治制度が長く機能したことなど、他の開港地と比較して独特の性格をもっています。



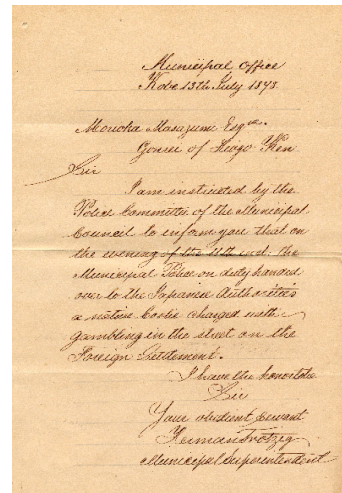
1-1 攝州神戸西洋館大湊の賑ひ(錦絵)



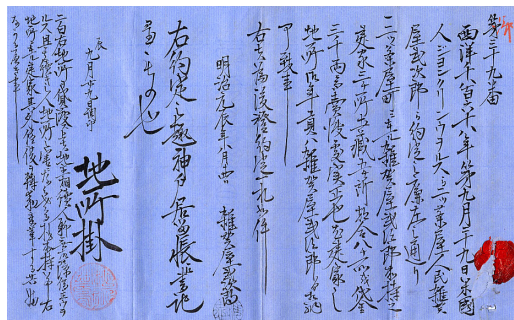
1-2 居留地競売予告



1-6 J.W.ハート意見書



1-14 居留地警察より知事宛通知



1-4 建家貸渡約定書



1-17 日本紹介図書に見える居留地海岸通風景

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
1-1	攝州神戸西洋館大湊の賑ひ (小信画)	錦絵	明治初期 発行: 本屋安兵衛 (大阪?)	開港後の居留地の賑わいを活写した錦絵。居留地の初期建築は、正面にベランダを持ち円柱が印象的な様式が多かったと言われるが、そうした雰囲気がかがえる。	海事科学分館 (海事博物館蔵置)
1-2	居留地競売予告	文書	1870年 発行: "Hyogo & Osaka Herald" Office	英字新聞会社が印刷配布した、居留地第3回競売 (1870年5月 60区画) の予告書。競売条件と各区画の坪数等が書かれている。	開港文書 (社会科学系図書館)
1-3	建家貸渡約定書 (外屋太郎左右衛門とP.ハイナメン)	文書	1868 (慶応4) 年	神戸町 (居留地外) の「建家」 (裏面の英文では「倉庫」) 1軒の貸渡約定書。この種の約定書は日英両文が表裏とんっている (逐語訳ではない)。アスピナル・コーンズ商会 (居留地1番) の支配人。奥書は初代県知事の伊藤俊介 (博文) 名	
1-4	建家土蔵売渡約定書 (雑賀屋武次郎とJ.G.ウォルシュ)	文書	1868 (明治元) 年	二つ茶屋町 (元町4丁目付近) の家屋・土蔵を売渡。外国人の土地所有は認められていないので建物だけの売買であるが、建物の処分は自由とされている。ウォルシュは居留地2番を取得した米国人で、後に神戸製紙所を創業する。	
1-5	山手永代借地地券書 (日本政府からC.ウイキンスへ)	文書	1869 (明治2) 年	居留地等では永代借地権の証として政府から「地券書」が交付された。本状は居留地ではなく山手地区の永代借地のもの。一時金の他に、「年貢」を当該年の米価に対応した額で払うとの規定がある。なお、県知事は陸奥陽之助 (宗光)。	
1-6	護岸堤防工事に関する意見 (J.W.ハートから居留地会議へ)	文書	1871 (明治4) 年	居留地建設に中心的役割を果たした土木技師ハートが、台風被害防止のための護岸堤防について現計画の不備を訴えた居留地会議宛意見書。	
1-7	居留地海岸通の台風被害	写真	1871 (明治4) 年 [復刻は1966年] <i>Far East</i> (復刻版: 雄松堂書店)	横浜の英字新聞 "Far East" の1871年7月17日号。同年7月5日 (和暦5月18日) の台風による海岸通の被害写真	
1-8	京町通に緑地帯設置の要望書	文書	1881 (明治14) 年	居留地の多くの外国人の連名で、居留地会議 (Municipal Council) に提出した要望書。居留地を南北に貫く京町通が広すぎるので、中央に緑地を設けることを提案している。	開港文書 (社会科学系図書館)
1-9	分一ドル換算率通知 (グラバー商会)	文書	1869年	ドルと日本の「分」 (4分の1両) との換算率に関する問い合わせへの回答文書。末尾にグラバー商会のグループ (後に六甲山開発等で著名) のと署名あり。	
1-10	武器代金未払の訴え (ウォルシュ商会より運上所宛)	文書	1869年	資料1-4にも登場するウォルシュ商会の書簡。Inshu (因州 = 鳥取藩) への武器代金のうち6,700ドルが未払いで困っており、運上所からも助力してほしいとの内容。	
1-11	居留地会議規則	文書	発行年不明	各国領事・兵庫県知事・住民代表からなる「居留地会議」の議事進行規則。	
1-12	地番表示改善要望 (兵庫県令から居留地行司宛)	文書	1872 (明治5) 年?	神田 (孝平) 兵庫県令名で居留地行司 (居留地会議の下の執行組織) に宛てた要望書。郵便配達時に困るので日本語の地番表示してほしいとの内容。	
1-13	居留地内馬で疾走の件要望書 (居留地会議から県知事宛)	文書	1871年	居留地会議議長ガワー (英国領事) 名で兵庫県に宛てた要望書。税関の役人が居留地内を馬で疾走するのは危険である旨、以前から苦情を申し入れているが改善されていない、との内容	
1-14	賭博者逮捕に関する通知 (居留地行司局長から県知事宛)	文書	1878年	居留地警察が日本人の賭博者を逮捕し、兵庫警察に引き渡した旨、居留地行司局長 (H.トロチック) から県知事 (森岡昌純) 宛の連絡文書。ヘルマン・トロチックは居留地返還まで25年以上行司局長 (兼警察局長) をつとめた人。	
1-15	「魔術ショー」案内と招待状	文書	1877 (明治10) 年	居留地内のMasonic Hallで開催される魔術ショーの案内と、県知事 (森岡昌純) 宛の招待状。	
1-16	『永代借地制度解消記念誌』	写真	1943 (昭和18) 年	「永代借地制度解消前後措置連絡委員会」 (兵庫県内) による記念誌で、谷正之外相が序文を寄せている。横浜・大阪・長崎と共同の運動であるが、神戸が主導的役割を果たしていた。	人間科学図書館
1-17	居留地海岸通	写真	c1898 (Boston, J.B. Millet) <i>Japan. Sect. 14</i>	撮影年は不明だが、居留地海岸通を撮影した、状態のよい写真。通には人力車が多く見える。なお本書は、豊富な絵・写真入りで日本の風俗・文化等を紹介した大型本	社会科学系図書館

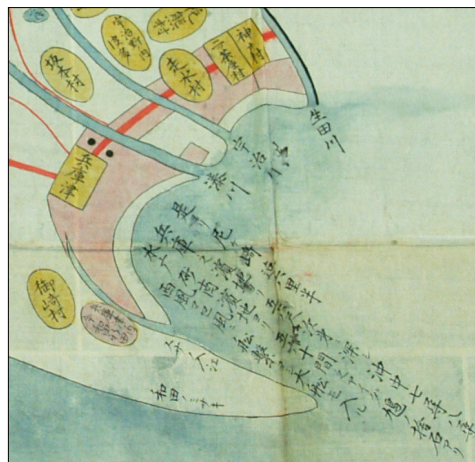
2. 地図で見る近代史

本コーナーでは、開港前の地図4点と、明治～昭和の地図6点、写真等若干の関連資料を展示しています。

江戸期の地図では都市「兵庫湊」の周辺に神戸村等の村落が点在する状態ですが、開港後は急速に開発された「神戸」と「兵庫」の並立状態となり、1879(明治12)年に「神戸区」が誕生して一体化します。その後は西にも東にも市域は広がり、徐々に現在の神戸市の姿に近づいていきます。

明治から昭和にいたる地図を見比べると、短い間にも大きな変遷があつて驚かされます。生田川付替・湊川付替・兵庫運河開削等の大土木工事、官営私営が競い合う鉄道敷設、海岸部を中心とする工場建設など、地図を子細に眺めると都市整備が急速に進む神戸の姿が浮かび上がってきます。

本コーナーの展示では代表的な事項をパネルにしてご案内しておりますが、それ以外にも各地図を丹念に眺めると、必ずや新たな発見があるかと思ひます。



2-2 摂津国八部郡匭絵図(部分)



2-7 兵神市街の図(部分:居留地付近) 1880年



2-14 実測神戸市地図(部分:神戸駅付近) 1912年



2-16 実地踏査神戸市街全図(部分:元町・三宮付近) 1934年

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-1	摂津国名所大絵図	地図	1748(寛延1)年 発行:木村壽陽堂(京都)	摂津国全域の名所絵図で縦横120cmの大判である。今回は一部の展示とした。生田川以西が八部(やたべ)郡、その東が菟原(うはら)郡、さらに武庫郡と続く。	住田文庫(社会科学系図書館)
2-2	摂津国八部郡匭絵図	地図	未詳(江戸末期?)	花熊村の庄屋・村上家文書中の資料。「匭」は「粗い」という意味で、主に郡内の村名を示した地図である。宇治川と生田川の間には、西から走水(はしうど)村、二つ茶屋村、神戸村。	村上文書(社会科学系図書館)
2-3	海上絵図	地図	1847(弘化4)年	大阪から筑後若津に至る海路図(海図に相当するもの)。長大なものであるが、今回は出発間もない兵庫周辺部分のみ展示した。	住田文庫(社会科学系図書館)
2-4	神戸村図	地図	未詳	生田川沿いに「勝鱗太郎殿 操練所」(勝海舟の海軍操練所)が見え、幕末の状況を記したものだが書写年は定かでない	
2-5	英国紙掲載の兵庫風景(1864年)	挿絵	1868年 (切抜) <i>Illustrated London News</i>	ロンドンの絵入り新聞に掲載された兵庫港の挿絵。1868年3月14日号掲載で「最近開港された」とあるが、スケッチは英国海軍軍医が1864年に書いたものらしい。	人文科学図書館
2-6	オールコック『大君の都』の兵庫風景(1861年ごろ)	挿絵	1868 (London, Longman) Alcock, Rutherford <i>The Capital of the Tycoon</i>	海から見た兵庫湊。英国公使オールコックは1861(文久元)年、兵庫開港の視察に兵庫を訪れた。この時は日本側も外国側も「兵庫」開港を念頭に置いており、オールコックは和田岬を居留地候補と考えている。	
2-7	兵神市街の図	地図	1880(明治13)年 発行:栗田福三郎(元町通)	「兵神」という表記には、「兵庫」「神戸」それぞれ別の町という意識の残存がうかがえるようである。左上に各地点への距離表があるが、基点は神戸駅の東、相生橋である。	住田文庫(社会科学系図書館)
2-8	神戸市細見全図	地図	1891(明治24)年 発行:山川鶴吉(宇治野町)	市制から間もない地図であり、「神戸市」の名称が標題に使われている。小さな字で詳細に記された地図である。	

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-9	神戸鳥瞰・諏訪山・神戸棧橋・和田岬	写真	1902(明治35)年 文芸倶楽部定期増刊『大阪と神戸』(東京:博文館)	明治30年代の神戸風景。特に、和田岬の風景は三菱造船所ができる以前の貴重な写真である。	人間科学図書館
2-10	ロータリー『古今日本』	挿絵	1907 (Leipzig, O. Spamer) Lauterer, Joseph. <i>Japan : Das Land der aufgebenden Sonner</i>	高台から見下ろした神戸のスケッチ(書かれた年代は未詳)。本書はドイツ語で日本の歴史・文化を幅広く述べたもので、表紙に『古今日本』という日本語タイトルもレイアウトされている。	社会科学系図書館
2-11	「居留地三代」(写真)	写真	昭和43年 『神戸貿易協会史』	明治初めから昭和12年ごろまでの居留地写真6枚	人間科学図書館
2-12	モース『日本その日その日』	挿絵	1917 (Boston, Mifflin) Morse, E.S. <i>Japan day by day</i>	大森貝塚の発見で知られるモースの日本滞在記。1879年に長崎・鹿児島への旅行中に神戸に立ち寄り1泊した。スケッチは、モース自身の筆によるものである。	人間科学図書館
2-13	第百号海図「神戸港」	地図	1903(明治36)年 発行:海軍省水路部	海軍作成の海図は、作成順に番号がふられている。海面は無論であるが、陸地もかなり詳細に書かれた地図である。	社会科学系図書館
2-14	実測神戸市地図	地図	1912(明治45)年 発行:石丸甚八(元町)	民間刊行だが、原図は神戸市役所。2-7,2-8の2図と違い、縮尺(15000分の1)が明記されている。	人間科学図書館
2-15	実地踏査神戸市街全図(昭和7年)	地図	1932(昭和7)年 発行:和楽路屋(大阪)	縮尺は12000分の1。裏面には観光案内と播州地図等がびっしり書かれている。	社会科学系図書館
2-16	実地踏査神戸市街全図(昭和9年)	地図	1934(昭和9)年 発行:和楽路屋(大阪)	2-16と同じ地図で発行が2年違い。わずか2年の差だが、仔細に見比べると違いが各所にある。	人間科学図書館

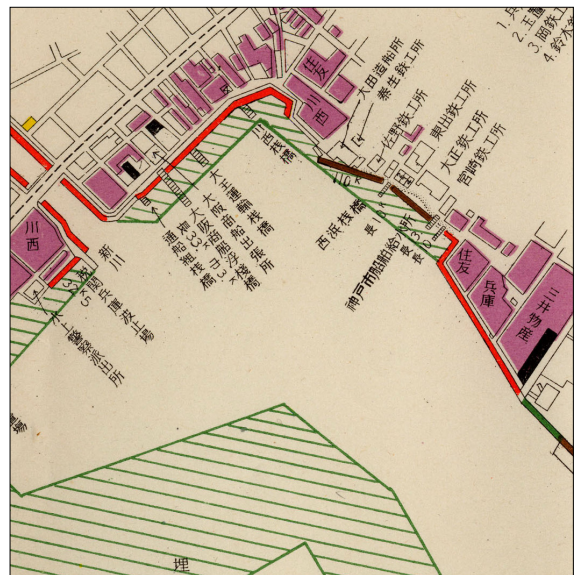
3. 神戸港の発展と海運

開港と同時に神戸港には外国船が盛んに入港し、海運業はまず外国商会によって主導されました。その後、1885(明治18)年に誕生した日本郵船など国内海運業も発展していきます。

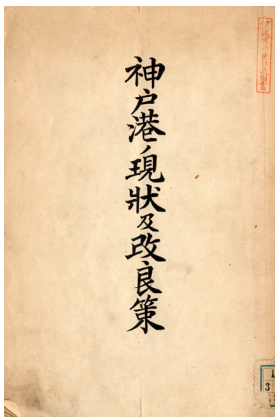
神戸は横浜とならんで貿易港として大きな役割を果たしましたが、その重要性からすると港湾の施設・設備は貧弱な状態が長く続きました。1896(明治29)年以降、神戸は市を挙げて中央政府への陳情を行い、様々な築港案が作られますが、なかなか実現には至りません。

事態が動いたのは、この問題への情熱で「築港市長」の異名をとった水上浩躬市長が就任してからです。意見書「神戸港の現状及改良策」を各方面に配布するなど積極的な活動が実って、1907(明治40)年ようやく神戸築港予算は帝国議會を通過しました。同年9月、小野浜の第1~4突堤を中心とする第一期修築工事が起工されます。その後1919(大正8)年からは第二期修築工事(中突堤、兵庫突堤など)も実施され、神戸港の基盤整備は大きく進みました。

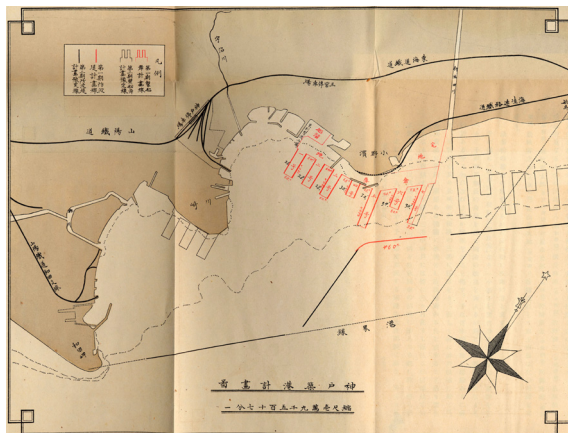
本コーナーでは、築港問題に関する当時の資料や、海運・貿易業関係の諸資料を展示しています。



3-13 神戸港沿岸利用状況調査図(部分) 1927年



3-7 神戸港ノ現状及改良策



3-8 築港計画図(市長案)

Under Contract with the Imperial Government of Japan for the Conveyance of Mails.			
NIPPON YUSEN KAISHA.			
JAPAN MAIL STEAMSHIP COMPANY.			
The Steamers will be despatched as follows:			
VESSEL NAME	DESTINATION	DEPARTURE	TO MAIL ON
MARSHALL AND LONDON via Melb, Hongkong, Singapore, Penang, Cebu, and Yokohama	BRITISH LINE	Wednesday, June 6	Thursday, June 6
YOKOHAMA	YOKOHAMA LINE	Wednesday, June 6	Thursday, June 6
YAMATE	YAMATE LINE	Thursday, June 7	Friday, June 7
YAMATE	YAMATE LINE	Friday, June 8	Saturday, June 8
YAMATE	YAMATE LINE	Saturday, June 9	Sunday, June 9
YAMATE	YAMATE LINE	Sunday, June 10	Monday, June 10
YAMATE	YAMATE LINE	Monday, June 11	Tuesday, June 11
YAMATE	YAMATE LINE	Tuesday, June 12	Wednesday, June 12
YAMATE	YAMATE LINE	Wednesday, June 13	Thursday, June 13
YAMATE	YAMATE LINE	Thursday, June 14	Friday, June 14
YAMATE	YAMATE LINE	Friday, June 15	Saturday, June 15
YAMATE	YAMATE LINE	Saturday, June 16	Sunday, June 16
YAMATE	YAMATE LINE	Sunday, June 17	Monday, June 17
YAMATE	YAMATE LINE	Monday, June 18	Tuesday, June 18
YAMATE	YAMATE LINE	Tuesday, June 19	Wednesday, June 19
YAMATE	YAMATE LINE	Wednesday, June 20	Thursday, June 20
YAMATE	YAMATE LINE	Thursday, June 21	Friday, June 21
YAMATE	YAMATE LINE	Friday, June 22	Saturday, June 22
YAMATE	YAMATE LINE	Saturday, June 23	Sunday, June 23
YAMATE	YAMATE LINE	Sunday, June 24	Monday, June 24
YAMATE	YAMATE LINE	Monday, June 25	Tuesday, June 25
YAMATE	YAMATE LINE	Tuesday, June 26	Wednesday, June 26
YAMATE	YAMATE LINE	Wednesday, June 27	Thursday, June 27
YAMATE	YAMATE LINE	Thursday, June 28	Friday, June 28
YAMATE	YAMATE LINE	Friday, June 29	Saturday, June 29
YAMATE	YAMATE LINE	Saturday, June 30	Sunday, June 30

3-5 日本郵船発着表



3-11 神戸港築港全景 1919年

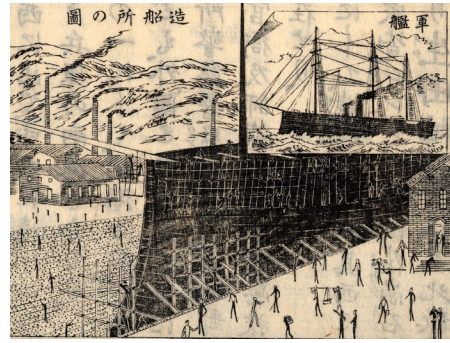
No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
3-1	水先案内人免状	文書	1874(明治7)年	兵庫港に在留していた英国人Thomas Hosford(トマス・ホズフォード)の水先案内を兵庫県令が許可した免許状。兵庫港から下関までの瀬戸内の水先案内を許可したもの。	開港文書(社会科学系図書館)
3-2	The Bund, Kobe (神戸居留地の写真)	写真	1871(明治4)年[復刻は1966年] 『Far East』(復刻版:雄松堂書店)	横浜の英字新聞“Far East”の1871年4月17日号。第一波止場(現在の京橋)近辺から海岸通りを写した写真。次ページには「神戸は東洋一美しい居留地である」というコメントも	国際文化学図書館
3-3	乗船上陸許可願	文書	1869(明治2)年	日本人が外国船に乗船する際に裁判所に提出した届。大坂元貨幣司銀幣方深江某が公用で神戸から横浜まで外国船に乗船する旨兵庫県裁判所宛てに届け出ている。	開港文書(社会科学系図書館)
3-4	神戸港外国船入津之図 (松川半山畫工)	挿絵	1873(明治6)年 『新增大日本船路細見記』 (大坂:柳原喜兵衛)	『大日本船路細見記』のなかの見開きの絵。居留地海岸通りと背後の六甲の山並みが神戸らしさを感じさせ、蒸気船、大型帆船、和船が入り混じっている様子が描かれている。	住田文庫(社会科学系図書館)
3-5	日本郵船発着表	記事	1905(明治38)年 Kobe Daily News	神戸において発行されていた日刊英字新聞“Kobe Daily News”1905年6月26日号に掲載されていた日本郵船会社所有船の発着表。欧州(ロンドン、マルセイユ)、シアトル、豪州、ボンベイ、上海など多くの航路が開かれていた。	開港文書(社会科学系図書館)
3-6	神戸港	写真	1900(明治33)年 『地理写真帖 内国之部第2秩』	高台より見下ろした築港前の神戸港の写真。沖に多くの船が繋留しており、棧橋らしきものが左中央に見える。『地理写真帖』は地理の学習資料	
3-7	『神戸港ノ現状及改良策』 (水上浩躬著)	記事	1906(明治39)年	神戸築港の必要性について水上市長自らが執筆し関係者に送った意見書。このような活動が築港実現に向けて大きな原動力となった。	社会科学系図書館
3-8	築港計画図(市長案)	図面	1908(明治41)年 『神戸築港問題沿革誌』 (神戸市役所)	水上市長が意見書の中で提案した築港計画図。いくつかの変更点はあるが、小野浜第1から第4突堤などは概ねこの通りに実現した。	
3-9	神戸築港問題の萌芽	記事	1908(明治41)年 『神戸築港問題沿革誌』 (神戸市役所)	『神戸築港問題沿革誌』は1907(明治40)年の第23回帝国議会において神戸築港予算が通過したことを受けて、神戸市役所が明治以来の築港問題をまとめた図書。	人間科学図書館
3-10	神戸税関設備に関する阪谷大蔵大臣演説の要旨	記事	1907(明治40)年 『神戸商業会議所年報』	明治39年9月16日阪谷蔵相が神戸築港計画を発表した際の演説の要旨。10年来の陳情がようやく実を結ぶこととなった、関係者にとっては劇的な演説内容であった。	
3-11	神戸港築港全景	写真	1919(大正8)年 『神戸実業要覧』(神戸市役所)	第一期工事中の小野浜の写真。線路は未完成で明らかに工事中であるが、船が接岸しすでに利用されているところもある。荷物の運搬に馬車が使われている様子が写っている。	社会科学系図書館
3-12	工事中の神戸港の様子 (写真3点)	写真	1923(大正12)年 『神戸港大観』(神戸市役所)	「神戸港築港全景」(3-11)に比べて「築港構内より突堤及沖合を望む」(下)では工事が進んでいる状況がみてとれる。第4突堤(現在の第1突堤)ではすでに鉄道・上屋が出来上がり、貨物車が運行している。	
3-13	神戸港沿岸利用状況調査図 (昭和元年)	図面	1927(昭和2)年 『神戸港大観』(神戸市役所)	第一期築港計画が竣工した後の神戸港の詳細図面と利用状況が記されている。第二期工事の計画内容もわかる。	
3-14	大神戸港の偉観	写真	1930(昭和5)年 『大神戸』(赤田庄之助編著)	昭和5年頃の神戸および居留地海岸通りの写真。『大神戸』は神戸の名所旧跡を記した案内書。	
3-15	埋立工事中の海岸通突堤	写真	1933(昭和8)年 『神戸港大観(昭和7年版)』 (神戸市土木部港湾課)	第二期工事中の国産波止場海岸通突堤。海岸通4丁目から6丁目までの海岸一帯を国産波止場と称し、国内向けの貨物が主に出入りしていた。現在の中突堤近辺。	人間科学図書館
3-16	『神戸港の将来に就て』	記事	1930(昭和5)年 発行:神戸市港湾部	東部海面埋立計画を含んだ神戸港臨海工業地造成計画を提案し、阪神両港のそれぞれの特性を生かして阪神地域の商工業の発展を図るべきという内容の意見書。はしがきに神戸市港湾部長森垣亀一郎の名がある。	
3-17	神戸港に船籍を有する汽船 及帆船	記事	1905(明治38)年 『神戸港』(田中鎮彦編)	1905年1月の時点で神戸港に船籍を置いていた汽船・帆船の名前と所有者、総トン数が一艘づつ記載されている。『神戸港』は港湾関係事業に関する名簿、名鑑を主とする資料。	社会科学系図書館
3-18	全国及び神戸港外国貿易輸 出入価額比較図	図表	1929(昭和4)年 『神戸港大観』(神戸市港湾部)	1912(大正元)年から1928(昭和3)年までの全国と神戸の輸出入を比較したグラフ。輸入においては、神戸は全国の半分を占めていた。1920(大正9)年までの第一次世界大戦の好景気と1921年の戦後不況、1927(昭和2)年の金融不況の影響が見てとれる。	人間科学図書館
3-19	『神戸港外国貿易六十年対照 図表』	図表	1928(昭和3)年? 発行:神戸税関	1868(明治元)年から1927(昭和2)年までの60年間にわたる神戸港の外国貿易について輸出・輸入それぞれの金額を折れ線グラフで表している。特筆すべき年には注釈が書かれていて、貿易の推移とその要因などが一目でわかる。	社会科学系図書館

4. 多様な産業の盛衰

開港以後、神戸にはさまざまな分野の製造業が勃興し、そのうちのいくつかは国内有数の製造拠点としての地歩を確立しました。本コーナーではその中から造船業、マッチ製造業、ゴム工業、そして総合商社として異彩を放った鈴木商店とその関連産業に関わる資料を紹介します。

もちろん、伝統ある醸造業や居留地時代の重要産業だった製茶業、鐘紡・日本毛織に代表される繊維産業、豪州貿易の兼松など、神戸で発展をとげた産業・企業は他にもいくつかあります。ただ、他の大都市と比べると「中核的な産業は造船、車両、機械工業とマッチ、ゴムという化学工業であった」点が神戸産業の特徴とされる(『新修神戸市史 経済産業編 II』より)こと等から、特にこれらを取りあげてみました。

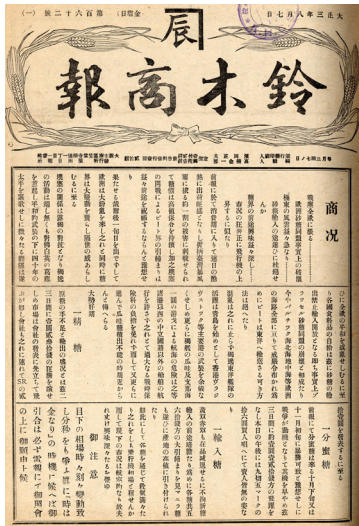
明治から昭和初期までの間は、たびたびの戦争等もあり、景気や経済状況の変動は激しいものがあります。このため、マッチ製造業や鈴木商店のように大変劇的な歩みをたどった産業・企業が少なくありません。



4-1-1 造船所の図



4-1-7 伊予丸進水式



4-3-1 鈴木商報(鈴木商店)



4-4-3 ダンロップ社広告



4-2-10 燐寸商標史

造船業

E.C.キルビーらによって創始された神戸造船業は、明治中期に川崎造船所(東川崎町)、後期に三菱神戸造船所(和田岬)という2大造船所ができて大きく発展しました。大正期の労働争議や第一次大戦後の造船不況などもありましたが、神戸の基幹産業としての地位を譲らず、また車両・電機など諸産業の母体ともなっています。

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
4-1-1	造船所の図	挿絵	1892(明治25)年 『新定兵庫県管内地誌』 (神戸:吉岡平助支店)	高等小学校用の教科書に掲載された図。本文(前葉)には「小野浜は港の東岸にして造船所あり」とあり、写実の度合いは不明ながらキルビー創業の「小野浜造船所」か。	人間科学図書館
4-1-2	蒸気船免状下渡依頼書 (熊本藩より兵庫県宛)	文書	1871(明治4)年 (「辛未」より推定)	キルビー商会が製造した171.5トンの木製蒸気船「舞鶴」が完成し、発注元の熊本藩から兵庫県宛に免状発行依頼。	開港文書(社会科学系図書館)
4-1-3	琵琶湖の鉄道連絡船 「第一太湖丸」	写真	1937(昭和12)年 『太湖汽船の五十年』 (大津:太湖汽船)	キルビーの建造した日本最初の鉄製汽船「第一太湖丸」「第二太湖丸」は琵琶湖の連絡船として使われた。本写真は汽船会社の社史に掲載のもの。	野村文庫(社会科学系図書館)
4-1-4	勘定書(キルビー商会より加賀製鉄所宛)	文書	1872年1月(明治4年12月)	加賀藩関係者が営んだ「加州製鉄所」宛の勘定書。展示した葉は「蠟燭」のような一般物品だが、次葉以降には「鉄板」「帆木綿」など船舶材料品も登場する。	開港文書(社会科学系図書館)
4-1-5	川崎正蔵肖像	写真	1918(大正7)年 山本実彦著『川崎正蔵』 (東京:吉松定志)	川崎造船所を創業した正蔵の晩年の肖像。正蔵は1837(天保8)年に生まれ、1912(大正元)年に76歳で没した。	人間科学図書館
4-1-6	川崎造船所全図	図面 (写真)	1911(明治44)年 造船協会編『日本近世造船史』 (東京:弘道館)	明治時代後期の造船所。船渠(ドック)と4つの船台を擁するとともに、機械・鋳鉄・撓鉄・鍛冶・模型など多くの工場が背後にあることがわかる。	社会科学系図書館

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
4-1-7	明治時代の進水式 (川崎造船所)	写真	1936(昭和11)年 『川崎造船所四十年史』 (神戸:川崎造船)	様々な種類の船舶の進水風景。左上の盛大な進水式は、株式会社化の翌年の1897年に造船奨励法適用第一号として建造された「伊予丸」(720トン)	野村文庫 (社会科学系 図書館)
4-1-8	伊予丸船体図	図面 (複製)	1911(明治44)年 『日本近世造船史附図』 (東京:弘道館)	4-1-7の写真に見える伊予丸の船体図。同船は、伊予汽船の貨物船として就航した後、日本郵船に売却され「北見丸」と改称。	社会科学系 図書館
4-1-9	海上から見た川崎造船所 (大正時代)	写真	1921(大正10)年 岩崎虔著『川崎芳太郎』 (神戸:岡部五峯)	向かって左側の巨大な構造物が1912(大正元)年に導入されたドイツ・デマーク社製のガントリー・クレーン。1910年受注の巡洋戦艦「榛名」(27,500排水トン)に対応したもの。	人間科学図 書館
4-1-10	神戸三菱造船所の浮船 渠	写真	1914(大正3)年 『神戸市工業概況』 (神戸市役所)	川崎造船が乾船渠を建設したのに対して、三菱造船所は浮船渠(鋼製の箱状に船を入れて上下させる)を導入した。フランス軍艦が入渠している写真である。	社会科学系 図書館
4-1-11	三菱造船所製作品	写真	1926(大正15)年 『神戸市工業概況(大正14版)』 (神戸市役所)	「ロードローラー」(道路舗装機械)と加古川鉄橋。当時の造船所は様々な分野を手がける総合機械産業でもあった。	社会科学系 図書館
4-1-12	大正8年川崎造船所争議 の交渉記録	記事	1919(大正8)年? 『怠業中松方社長対職工側委 員会見録』(神戸:川崎造船所)	松方幸次郎社長と労働者側代表との4次にわたる交渉を会社側が逐語再現した記録。文中にある8時間労働制が実現して決着した。	坂西文庫 (社会科学系 図書館)
4-1-13	大正10年川崎三菱争議 団「就業宣言」	記事	1921(大正10)年 『神戸に於ける三菱労働紛議』 (東京:三菱造船)	40日余り続いた争議の、労働者側の「全面敗北」というべき最終宣言。会社・市長・知事等の態度を厳しく論難した後、やむなく「就業を宣言」としている。なお、本資料は会社側(三菱)が経緯をまとめたもの	

マッチ(燐寸)製造業

明治中期から大正時代まで、神戸はマッチの全国一の産地・輸出地で、瀧川辨三らの実業家による多くの工場がありました。その後国際競争の荒波の中で、マッチ業界は外資との大合同から内紛・破綻という劇的な経過を辿り、生産も市内から県内他地域に移っていきますが、戦前期の長きにわたり神戸の基幹産業の一つでした。

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
4-2-1	瀧川辨三肖像・記事	記事	1911(明治44)年 『現代兵庫県人物誌』 (神戸:県友社)	瀧川辨三は1851(嘉永4)年山口県生まれ、電信技師からマッチ産業に転身した。1925(大正14)年死去。	大西文庫 (人間科学 図書館)
4-2-2	燐寸輸出盛衰比較表 (明治11-32年)	図表	1901(明治34)年 『坂神輸出燐寸業調査報告』 (東京高等商業学校)	マッチ輸出状況が端的にわかるグラフ。1883-84(明治16-17)年に粗製乱造が問題化していったん落ち込むが、その後は急速に伸張。	社会科学系 図書館
4-2-3	燐寸業(神戸市工業調査)	記事	1903(明治36)年 『勸業彙報1号』(神戸市役所)	明治10年ごろから約25年間の神戸燐寸業の浮沈がコンパクトに述べられている。	
4-2-4	シンガポールにおける日 本燐寸輸入状況	記事	1906(明治39)年 『神戸市立商品陳列所報』	領事館報告を元にした記事「新嘉坡輸入日本品商況並に其集散分布概況」の一部。シンガポールを拠点に東南アジア全域への広範な輸出があったことがわかる。	
4-2-5	燐寸工場の労働事情調 査(明治34年調査)	記事	1903(明治36)年 『燐寸職工事情』(農商務省)	岩波文庫等でも入手できる著名な調査である。展示のページでは、女性・子供の労働者が非常に多かったことが書かれている。	
4-2-6	兵庫県下の燐寸工場 (明治35年12月現在)	名簿	1904(明治37)年 『工場通覧』(農商務省)	次業にもわたり60余の工場が挙げられている。神戸市内は約30だが、比較的大規模な工場が多い。	
4-2-7	燐寸工場作業風景	写真	1912(大正元)年 『神戸市之工業』(神戸市役所)	軸排列、摺葉塗付、商標貼付の各作業風景。女性の姿が多く写っている。	人間科学 図書館
4-2-8	清燧社広告	広告	1911(明治44)年 『Kobe Trade Directory(神戸商工 録)』(神戸商業会議所)	瀧川辨三の「清燧社」の広告。本書は和英両文からなる名鑑で、広告も英文併記となっている。	
4-2-9	直木燐寸製作所	写真	1903(明治36)年 『実業の誉』(兵庫県庁)	木箱にはシンガポールや香港の文字が見える。直木燐寸は荒田町2丁目にあり、奥平野村にも工場あり。	人間科学 図書館
4-2-10	『燐寸商標史』(喜多紫雲 著)	記事	1914(大正3)年 発行:熊谷久栄堂(神戸)	神戸新聞連載記事をもとにしたもの。当時既に収集家も多かったようで、商標の実物大を貼り付けた造りである。商標ラベルはマッチ製造・輸出にとって非常に重要なもので、模倣問題もしばしば起こっている。	社会科学系 図書館

鈴木商店と関連産業

神戸の洋糖輸入商から出発した鈴木商店は、大番頭金子直吉の指導力のもと、大正期には三井三菱と「天下三分」と言われるまでに発展した総合的商社でした。1927(昭和2)年の金融恐慌で破綻しますが、かつての鈴木系列で現在も続く大手企業が多くあります。

鈴木商店の初期の主力品目だった砂糖と樟脳は、ともに神戸の主要産業の一つとなりました。

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
4-3-1	鈴木商報(明治43年10月)	記事	1910(明治43)年 発行:鈴木商店	鈴木商店が月3回「7」の付く日に発行していた情報紙で、珍しい資料である。ほとんどの号で、砂糖に関する記事が多くを占めている。	社会科学系 図書館
4-3-2	鈴木商報(大正3年8月)	記事	1914(大正3)年 発行:鈴木商店	第一次世界大戦開戦を受けた号である。「ブラッセル砂糖同盟の崩壊」等により、砂糖が騰貴するとの見通しが述べられている。	

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
4-3-3	金子直吉の署名	署名	1924(大正13)年 『経済野話』(東京:巖松堂)	自著『経済野話』に金子直吉が贈呈添書をしたものが当館に所蔵されている。『経済野話』は、金融政策論や貿易論から国字問題まで幅広く随想風に論じた図書。	人間科学図書館
4-3-4	『米価問題と鈴木商店』	記事	1918(大正7)年 発行:鈴木商店	米騒動による焼き打ち事件後、鈴木商店が米価調節問題における自らの位置を述べ、買占め等の風評の誤りを主張した冊子。	社会科学系図書館
4-3-5	金子直吉翁晩年の肖像 (小磯良平画)	絵画 (写真)	1950(昭和25)年 『金子直吉伝』(金子柳田両翁顕彰会)	伝記の口絵写真となっている、小磯良平画の金子直吉肖像。	人間科学図書館
4-3-6	『内地樟脳専売事業年報』 (明治38年)	記事	1906(明治39)年 発行:大蔵省主税局	1903(明治36)年以降、樟脳は専売制となり、「専売事務局」が九州の4箇所と神戸に置かれた。	社会科学系図書館
4-3-7	日本樟脳株式会社	写真	1921(大正10)年 『神戸市工業概況』(神戸市役所)	1918(大正7)年に大合同で成立した日本樟脳株式会社の本社と工場風景(葺合区小野柄通)。	
4-3-8	日本樟脳の内地商標	図版	1938(昭和13)年 『精製樟脳史』(神戸:日本樟脳)	製造を独占していた日本樟脳製品の国内向商標である。販売者は様々で、鈴木商店の名も見える。	

ゴム(護謨)工業

明治末から大正初、ダンロップの神戸進出と「阪東式調帯」が発祥の動力伝導用ベルト製造により、神戸がゴム製品の一大産地となります。その後マッチ工業の衰退と歩調を合わせて大正後期にはゴム靴製造業が一気に花開きました。

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
4-4-1	阪東式調帯合資会社写真	写真	1925(大正14)年 『神戸市工業概況(大正13年)』(神戸市役所)	動力伝導ベルト、コンベヤベルト等のパイオニアである阪東式調帯の工場。菅原通にあった。	国際文化学図書館
4-4-2	阪東式調帯合資会社広告	広告	1928(昭和3)年 『神戸商工会名録』(神戸商工会議所)	阪東式調帯の広告。全国に出張所を構えている。	社会科学系図書館
4-4-3	ダンロップ護謨極東株式会社 社広告	広告	1931(昭和6)年 『神戸商工会議所統計年報』(神戸商工会議所)	協浜にあったダンロップの広告。「どの自動車を見てもタイヤといえばダンロップ」とあるが、実際1930年ごろまで自動車用タイヤでは独占に近い状態にあった。	
4-4-4	ゴム工場の「混和ロール」機 械と作業風景	記事	1928(昭和3)年 『護謨工場の災害防止』(内務省社会局)	洗浄したゴムを配合剤とともに練り合わせる工程である。本資料は兵庫県技師による工場安全調査を全国に知らしめるため内務省が作成した冊子。	
4-4-5	護謨製品製造会社一覧	名簿	1930(昭和5)年 『神戸市商工名鑑』(神戸市役所)	リストは12ページに及び、200近い会社が存在している。中でもゴム靴製造が非常に多い。	人間科学図書館

5. 新聞記事文庫

本コーナーでは、本学経済経営研究所の「新聞記事文庫」をご紹介します。

新聞記事文庫は、1912(明治45)年から60年以上にわたり営々と積み上げられた新聞記事切抜資料で、切抜帳にして約3,200冊、記事数は50万件以上という膨大なものです。旧植民地発行紙を含む多数の新聞を採録対象とし、専門家による選択・分類を経て切り抜いているのが特徴です。特に戦前期(記事数約40万件)においては、同種の事業が他に満鉄調査部しか見当たらず、満鉄のものが失われた現在では非常に貴重な資料です。

神戸大学附属図書館では1999(平成11)年より、この貴重な資料をより多くの方に役立てていただくため、「デジタル版新聞記事文庫」事業に取り組んでいます。2005年現在、約10万記事をインターネットを通じて広く公開しています。来学されなくともどこからでもアクセスできますし、記事見出しや本文中の語句から探すことも可能になり検索性能が大幅に高まりました。なお、2004年度よりデジタル化事業には科学研究費研究成果公開促進費の補助をいただいています。

本展示会では、テーマに沿って印刷したファイルを各コーナーに用意しました。また本コーナーのPCで全体を自由に散策していただくこともできます。



デジタル版新聞記事文庫

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/sinbun/>

編集・発行: 神戸大学附属図書館 2005(平成17)年11月1日発行
 問い合わせ先: 情報サービス課情報リテラシー係
 Tel: 078-803-5313 Fax: 078-803-7355
 URL: <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/>